



キャリア形成支援プログラム

大学と社会を「むすんで」、未来を拓く人材を「うみだす」。





大学と社会を「むすぶ」。
専門の学びにつながる
キャリア形成支援プログラム。

キャリア教育センター長
国際関係学部 教授
植原 行洋 (うえはら ゆきひろ)

産業界と連携した学習プログラムで
根幹的な実力を養う

京都産業大学では1990年初頭、他大学に先駆けてキャリア形成支援教育を開始しました。1999年には、インターンシッププログラムを正式な科目として設置。当時から直接的な就職支援としてではなく、社会を生き抜く「根幹的な実力」の育成をめざす“教育”として位置づけ、取り組んできました。現在ではさらにそれを推し進め、産業界と連携して人材育成のための学習プログラムを開発する「コーオプ教育*」に進化。学内での「学び」と学外での「実践」を段階的に積み重ねる独自の教育体制を構築しています。これにより、企業をはじめ、国や学外の教育機関から高い評価をいただいています。

常に先進的な取り組みに挑戦し、
より専門性に特化したプログラムを実践

本学では実習協力企業が約350社規模に増え、時代に先駆けた取り組みが社会的に広がってきたと実感しています。本学の建学の精神は「将来の社会を担って立つ人材の育成」です。そのために、本学の理論と産業界での実践を融合した教育で、卒業後直ちに実社会に役立つ実力を身につけた学生を輩出することを使命としています。

パンデミックを経験し、オンラインツールの普及、生成AIやネットワーク社会の発展から大学教育も大きく変化しています。しかし、同時にキャリア形成支援プログラムは、“リアル”な就業体験や社会人との直接交流による深い学びの必要性も再認識しています。

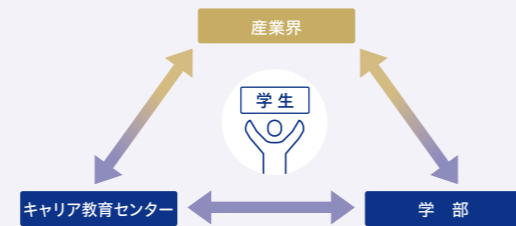
「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」(文部科学省、厚生労働省及び経済産業省合意)の改正を受け、産学協働教育のリーディングユニバーシティとして、新基準に準拠した「キャリア実習(インターンシップ実践型)」を2023年度に開始しました。

近年では「理工系スタートアップ・キャリアデザイン」や「アスリートインターンシップ」など、より専門性に特化したプログラムをスタートさせ、学内でも安定的に認識されています。「アスリートインターンシップ」は、体育会クラブ所属学生を対象としたプログラムで「夏期休暇期間は大会でインターンシップに参加できない」「部活動が忙しくインターンシップに注力できない」といった学生の声に応えたものです。もともとアスリート学

生は企業から人気があり、多くの企業からインターンシップの受け入れを表明いただいています。2022年3月には、一般社団法人大学スポーツ協会(UNIVAS)のマイナビ賞「キャリア支援に関する優秀取組賞」を受賞し、内外から注目を集めています。大学の本質は「専門の学び」を深めること。そのため、キャリア形成支援教育と学部の学びを切り離して考えることはできません。学んできた専門性を社会でどう活かすか。その推進のため、各学部の専門性を活かせる企業とのタイアップを深め、学生に多彩なプログラムを提供できるよう取り組んでいます。「理工系スタートアップ・キャリアデザイン」「理工系コーオプ教育プログラム」もその一環。直接的な専門分野のみならず、理工系ならではの考え方が活かせる仕事など、学びで培ってきた「力」を大切にプログラムを構築しています。

学生、大学、社会の未来のために
産学連携教育の一層の充実を

さらに、学部独自で実習先を開拓する取り組みも拡がりつつあります。もちろん、学部の教員だけではできない部分はキャリア教育センターが積極的にサポートしていく方針です。

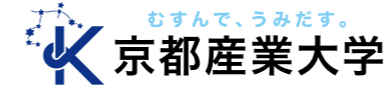


学生にとって大学内は「守られた世界」です。社会に出ることは、その守られた世界から外に出ること。そのため、学生には挨拶や時間厳守など社会の基本ルールはもちろん、責任感を持って挑戦する姿勢を期待しています。また、企業にも「学生が来るから特別なことを」と考えず、ぜひ普段の事業活動を見せていただきたいと思えます。それが学生にとってリアルな経験になるはず。

「大学の使命は、将来の社会を担って立つ人材の育成」という学祖荒木俊馬の建学の精神が京都産業大学には脈々と受け継がれています。社会を担う優れた人材を輩出するためには、キャリア形成支援プログラムの進化と、企業の積極的な協力の「両輪」が不可欠です。

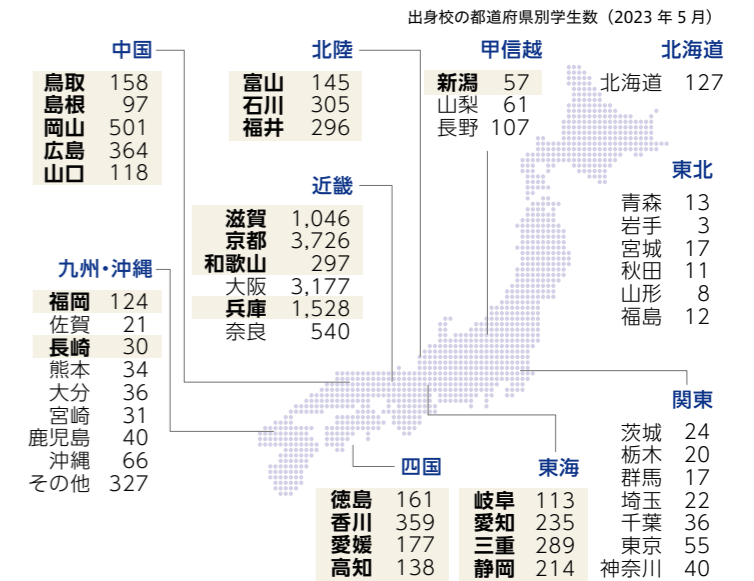
今後もより多くの企業に協力いただけることを願っております。

*キャリア教育の手法の一つで、教育目標とそれを実現するプログラムや指導方法を企業と教育機関が共同で開発する、長期や複数回の就業体験を含んだ学習プログラム。北米では100年以上の歴史があり、人材育成に成果をあげています。



創立 **1965年**
学生数 **15,323名**(2023年5月)
就職率 **97.7%**(2023年3月卒業生)
就職協定締結数 **23府県**

※右図大学参照

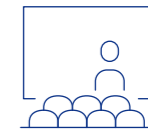


全学部・全年次
対象の16科目を
多くの学生が受講
(2023年度)



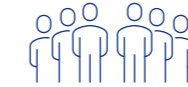
3,734名

多くの教員が
科目を担当
(2023年度)



97名

多くの企業・
団体と連携
(2023年度)



350社

8割を超える連携企業・団体が
翌年度も継続
(2022~2023年度)



88.2%

MERIT 受講生受け入れのメリット



社会貢献

本プログラムにより、受講生は、社会で求められる能力を知り、大学での学びの重要性を再認識して、広く深く独自のキャリア観を形成していきます。企業と大学が連携して、将来の社会・地域・産業界などを支える若者を支援・育成することは、広く社会に貢献する活動だといえます。



企業・業界理解の促進

企業や業界の理解は、受講生が企業理念や業務内容について調べる他、実際の業務を通して、より深めることができます。また、それらの情報を互いに共有することから、企業・業界の魅力を広く発信することにもつながります。



社内の活性化、社員の育成

「学生らしいアイデアや視点を新しいプロジェクトに活用する」、「自社価値の客観視や再確認ができる」など、受講生を受け入れることが、社内の活性化につながります。また、社員が受講生の教育を担うことで、自身のキャリア観や業務の棚卸しができ、成長を実感する機会にもなります。



大学と他企業・団体との連携強化

様々な科目において、企業・団体の担当者、大学教職員、学生との交流の場を設けています。業界の現状や、採用状況に関する意見交換などを通して、企業間や大学、学生とのネットワーク構築、新たな出会いの創出といった機会を積極的に提供しています。

経済学部 Faculty of Economics

“社会問題の解決力で未来をむすぶ力”を育成する

経済学科

現代社会が抱える問題を様々な視点から分析し、問題の解決方法を考察・研究します。若年層の雇用問題、少子高齢化、都市への人口流入や企業の集積、企業活動・金融のグローバル化、金融危機、地球温暖化など多岐のテーマを学びながら、2年次からは「現代経済コース」「ビジネス経済コース」「地域経済コース」「グローバル経済コース」の4つの専門コースのいずれかを選択し、体系だった学識を涵養することで、現代社会の構造と課題を理解し、“未来を見通す力”を身につけた人材を育成します。



経営学部 Faculty of Business Administration

“人と資源をむすぶ力”を育成する

マネジメント学科

マネジメントに必要な「戦略と組織」「マーケティングとイノベーション」「アカウントビリティとガバナンス」の3つの領域を学びます。3つの学びの領域から自由に授業を組み合わせ、分野を横断的に学ぶことで、課題解決力や創造力、データ分析・収集力、コミュニケーション、国際力を養います。ヒト、モノ（機械や技術）、カネ、情報に加え、時間といった環境面も含めた経営資源をトータルで管理できる能力＝マネジメント能力を身につけた人材を育成します。



法学部 Faculty of Law

“法と社会をむすぶ力”を育成する

法律学科

法学・政治学の基本から最先端の法律問題や政治課題など幅広い内容を取り扱います。社会で生じる紛争問題を対象とし、自ら問題を発見。法的ルールを適用し、解決策を考察します。問題や課題の発見力、解決力、論理的思考力などを備えた人材を育成します。

法政策学科

様々な社会問題と国や自治体の関係を探求。問題解決のために法律、政治の知識や考え方を基盤とし、どのような方策をたて、実行に移すかを考えていきます。問題発見力、論理的思考力、企画立案力、情報発信力を備えた人材を育成します。



現代社会学部 Faculty of Sociology

“私たちが作る未来をむすぶ力”を育成する

現代社会学科

「地域社会学」「人間社会学」「メディア社会学」の3つの視点から社会を捉え、世の中で起きている現象の構造や本質を明らかにし、その解決に挑みます。多様な人々との協働、新しい発想、多様な視点でさまざまな課題の解決に取り組む実践力を身につけた人材を育成します。

健康スポーツ社会学科

「社会学」と「健康スポーツ科学」を融合させ、「スポーツ×地域活性化」や「スポーツ×ビジネス」などの複眼的思考により、健康・スポーツの持つ可能性や価値を探求・創出します。スポーツの多様なあり方や人々が健康で活力ある社会を創るための能力と意欲をもつ人材を育成します。



国際関係学部 Faculty of International Relations

“世界の理想と現実をむすぶ力”を育成する

国際関係学科

紛争、人権侵害、環境問題、難民問題、貧困、金融危機など、国際社会における困難な「現実」に向き合い、政治、経済、社会、文化、法など、多角的な視点で課題を分析・理解し、目指すべき「理想」の実現に向けて発信・行動できる力を身につけます。英語でも日本語でも情報を収集し、積極的にコミュニケーションをとれる力とともに、2年次からは「政治」「経済」「共生」の3つのコースに分かれて、専門性を高めていきます。多様な価値を尊重しながら他者と協働する力を備えた、グローバルに活躍できる人材を育成します。



外国語学部 Faculty of Foreign Studies

“コトバで人をむすぶ力”を育成する

英語学科

グローバル社会での活躍を目指す「英語専攻」、ハイレベルな英語力を身につけ、世界での活躍を目指す「イングリッシュ・キャリア専攻」の2専攻に分かれ、英語による授業や留学経験を通じ、グローバルな視野に立つて各界で活躍できる人材を育成します。

ヨーロッパ言語学科

ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、ロシア語、メディア・コミュニケーションの6つの専攻を設け、政治的・経済的なまとまりをもつヨーロッパを舞台に、多様な歴史・文化・言語に触れることでヨーロッパに関する広い視野を身につけます。

アジア言語学科

中国語、韓国語、インドネシア語、日本語・コミュニケーションの4つの専攻を設け、世界経済を牽引するアジアを舞台に、アジア各国の歴史や政治、経済、文化、言語について理解し、日本とアジアの懸け橋となる人材を育成します。



文化学部 Faculty of Cultural Studies

“京都と世界をむすぶ力”を育成する

京都文化学科

京都文化の核心にアプローチする「京都文化コース」、観光の観点から文化の現代的課題に取り組む「観光文化コース」、京都文化の世界への発信を目指す「英語コミュニケーションコース」の3コースを設置し、高度な専門性と幅広い教養を身につけます。

国際文化学科

歴史、思想、文学・芸術の切り口から学ぶ「総合文化コース」とアジア・アメリカ・ヨーロッパの地域を軸に学ぶ「地域文化コース」を設置。多様な視点から学ぶことで異文化理解力を身につけ、対話を通じてあらゆる社会的な課題を解決へと導ける人材を育成します。



理学部 Faculty of Science

“未知と真理をむすぶ力”を育成する

数理科学科

代数学系、幾何学系、解析学系、応用数学系の4分野を組み合わせ、数理科学を体系的に学びます。基礎数理と応用数理の両輪を基盤とし、段階的に専門性を高めながら、事象の本質を見る眼を養い、ビジネスの分野で役立つ生きた数学を学びます。

物理科学科

物理学の基礎分野から、ナノテクノロジーといった最先端分野まで、実験・演習を中心に学び、科学技術の最先端にアプローチします。急速な技術革新にも対処できる柔軟な思考力、総合判断力、創造力を育成していきます。

宇宙物理・気象学科

惑星大気から宇宙空間などの物理現象を学びます。本学の神山天文台を活用し、私立大学で国内最大を誇る望遠鏡での実践的な学びも特長です。JAXA（宇宙航空研究開発機構）をはじめとする研究機関と連携した最先端の研究も行います。



情報理工学部 Faculty of Information Science and Engineering

“情報と技術をむすぶ力”を育成する

情報理工学科

スマートフォンやタブレット端末、IoT、ロボット、人工知能(AI)、3Dプリンタなど現代の情報社会に合わせた多彩な10コースを設定。幅広いコース選択と組み合わせにより、専門分野に特化した人材や、多様な知識と技術を身につけた人材を育成します。講義+実践による学習サイクルで、深い知識と技術を学び、3Dプリンタやレーザーカッターなどの最新設備を使った多彩な実験や演習科目を通じて、さらに理解を深めていきます。



生命科学部 Faculty of Life Sciences

“生命科学と未来の暮らしをむすぶ力”を育成する

先端生命科学科

生命科学を基礎から発展まで徹底的に学びます。豊富な研究実績を有する教員のもと、探究心をもって最先端の研究に主体的に取り組むことが出来ます。1年次より演習と実験を重ね、高い専門知識と高度な実験技術を兼ね備えた人材を育成します。

産業生命科学科

生命科学と社会に関わる諸問題に対処するため、生命科学と社会科学両方の知識を学びます。企業と連携したPBL（課題解決型学習）など実践的な学習も取り入れ、生命科学の研究成果を社会に正しく還元し、様々な産業分野で活かせる人材を育成します。



CURRICULUM「大学での学び」と「社会での実践」を段階的に積み重ねていく4年間

2024年度キャリア形成支援プログラムカリキュラム

4年間の学びの流れ



導入・接続教育科目群 科目名		1年次		2年次		3年次		4年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
自己発見と大学生活	1年次生が「どのような大学生活を送るのか」「将来何がしたいのか」を、同じ受講生や先輩学生とのグループワークなどを通じて考え、自分なりに表現できることを目指します。								
ファシリテーション入門	ファシリテーションとは、集団での問題解決、アイデア創造、自己表現など、あらゆる知識創造活動を支援・促進していく活動です。本授業では、少人数でのグループワークを通して、これらに必要なスキルの修得を目指します。								
キャリア・Re-デザイン	大学生活や将来に対するモチベーションを再発見する科目です。グループワーク型の授業を通して様々な人々と関係を築きながら多様な価値観に触れることができます。								

産学協働教育科目群 科目名		1年次		2年次		3年次		4年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
キャリアデザイン系 自己を分析し、将来をプランニングする	スタートアップ・キャリアデザイン								
	自己発見とキャリアデザイン								
	キャリアのためのビジネスソリューション								
PBL系 チームで実社会の課題に取り組む	理工系スタートアップ・キャリアデザイン								
	O/OCF-PBL 1								
インターンシップ・キャリア実習系 企業等で実務を経験する	O/OCF-PBL 2								
	企業人と学生のハイブリッド								
	キャリア実習 (インターンシップ実践型)								
	キャリア実習 (職場体験型)								
	キャリア実習 (自己開拓型)								
	キャリア実習 (海外インターンシップ実践型)								
	キャリア実習 (大学コンソーシアム京都連携型)								
アスリートインターンシップ									

学部専門教育 プログラム		1年次		2年次		3年次		4年次	
		春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
理工系コーオプ教育プログラム	情報理工学部と生命科学部の学生が対象。学生の研究に即した課題を企業と大学が設定し、課題解決に向けて実践と経験を積み上げていく、コーオプ教育の手法を活用した特別研究(卒業研究)の一環として実施されるプログラムです。								

企業・団体との連携を図り、実習の受け入れや課題提供などの協働をお願いしている科目及びプログラムです。

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、各科目の授業形態等につきまして、当初の予定から変更になる場合がございます。

※掲載内容は取材当時のものです。

スタートアップ・キャリアデザイン

対象 全学部 1年次 2年次 開講時期 秋学期

1・2年次からキャリア形成の基礎を培う。

キャリア形成、企業の経営戦略や組織論、企業調査、ビジネスマナーに関する事前講義をふまえて、学生のみで企業を訪問・調査します。2度のインタビュー調査、見学型職場実習を経て、企業の働く場としての魅力を「魅力発信レポート」として発表します。「素の大学生」と交流することで大学生の価値観や考え方を知ることができるため、採用活動や若手社員教育にもお役に立てております。



授業(発表会)にて受入企業の魅力を発信している様子

！ 企業様にご協力いただく内容

- インタビュー調査の対応 (2回、1回2時間程度)
- 2日以上(合計9時間以上)の見学型職場実習受け入れ
- インタビュー対応学生との連絡(メール)
- 発表会への参加

プログラム内容

事前学習・インタビュー調査



9月下旬～11月中旬《9講》
 ・中小企業に関する講義
 ・企業訪問オリエンテーションとビジネスマナー指導
 ・インタビュー準備と2回のインタビュー調査

2日以上の見学型職場実習



11月中旬～11月下旬《2日間・9時間以上》
 ・職場における見学型職場実習と企業の「魅力」を取材
 ・2023年度受入企業実績:11社

事後学習・魅力発信レポート作成



12月上旬～1月中旬《6講》
 ・「魅力発信レポート」の作成
 ・学内発表会プレゼンテーション準備と発表

MESSAGE

協力企業

キャリア形成の一步となる経験を提供していきたい。

実習への要望や興味を知るため対話を重視。学生さんからも「自分と他者の意見が違った時は?」と率直な質問があり、「自分の意見を大切に、周りとの調和も大切に」と答えると、より素直に思いを表現してくれるように。互いの理解が深まり、キャリア形成の一步として貢献できたと感じます。私たちも変化する学生さんの価値観に触れ、会社として変わっていくヒントを得る貴重な機会となりました。



彌栄自動車株式会社
 人事部 課長補佐
 江畑 明宏 (えはた あきひろ)

受講生

働きがいの意味を考える有意義な機会になりました。

初めは不安でしたが、連絡の取り方、時間・期限厳守など先生からのきめ細かい指導と、企業の方の温かい協力のもと安心して取り組めました。みなさんが誇りを持ち働かれている様子に感銘を受けるとともに、働きがいは会社の理念や方向性と自分の価値観を融合して自ら生み出していくものなのだ実感。私も視野を広げ、働きがいや社風を重視して職業選択をしたいと思うようになりました。



経営学部
 マネジメント学科 1年次生
 尾崎 弘美 (おざき ひろみ)

教員

1・2年次から企業活動や仕事への理解を深め、学びの意欲を醸成。

受講生たちが自ら企業に連絡・調整・訪問。企業担当者ややりとりを重ね、社員の方々のインタビューや見学型職場実習を経験する中で、当初の緊張や不安が払しょくされ、知的好奇心と積極性が向上します。最後は一人ひとりが完成度の高いレポートをまとめ立派に発表。1・2年次から、働くことや将来のキャリアへの期待を抱き、大学の学びの意欲を高める貴重な契機となっています。



共通教育推進機構
 准教授
 松尾 智晶 (まつお ちあき)

理工系スタートアップ・キャリアデザイン

対象 理学部・情報理工学部・生命科学部 1年次 2年次 開講時期 8月

各専攻の学びと社会のつながりについて理解を深める。解決のためのスキルや心構えを培う。

本科目は、理工系学部(理学部、情報理工学部、生命科学部)の1・2年次を対象とした科目です。理工系学部の強みを活かして、本学のスローガンである「むすんで、うみだす。」力を身につけます。授業はキャリアに関する講義と学生による企業インタビュー及び成果発表の3部構成です。



企業訪問報告会の様子

！ 企業様にご協力いただく内容

- インタビュー調査の対応 (2回、1回2時間程度)
- 企業訪問報告会への参加
- インタビュー対応学生との連絡(メール)

プログラム内容

事前学習



・自己理解を深め表現しあう講義
 ・専門領域の学びに関する理解を深める講義及び企業訪問準備
 ・企業訪問オリエンテーションと事前準備

第1回 インタビュー



・企業訪問
 「第1回インタビュー」

中間



・企業訪問の振り返り
 ・2回目の企業訪問に向けての準備

第2回 インタビュー



・企業訪問
 「第2回インタビュー」

事後学習



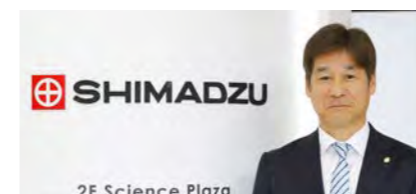
・企業訪問報告及び発表準備
 ・企業訪問報告会「自らの専門領域の学びと社会とのつながり」、最終レポートの作成、振り返り

MESSAGE

協力企業

若手社員にとっても、初心に帰りこれまでの仕事を振り返る機会に。

業界・企業への理解を深め、当社の魅力を実感いただけることにも期待し参画。業務の一般的な説明ではなく、「人」の側面から感じ取ってもらえればと考え、若手社員が自然体で対応しました。1年生とは思えないほど意識が高く、インタビューにも一生懸命下調べして臨まれていました。社員としても同じ理工系学部出身者として通じ合う面があり、初心に帰って仕事を振り返ることができたようです。



株式会社島津製作所
 京都支店 支店長
 大屋 重弘 (おおや しげひろ)

受講生

キャリア形成に向けた課題と目標を発見できました。

キャリア形成の第一段階になればと受講しました。インタビューでは初め質問を十分に準備できなかったのですが、「自分が今後すべきことを考える」という目的を持つことで掘り下げることができ、社員の方にも「答えるのが楽しい」と言っていた嬉しかったです。心に残ったのが「大学時代の理系的思考が役立つ」という言葉。今の自分に足りていないことを痛感し、今後の目標になりました。



生命科学部
 先端生命科学科 1年次生
 林 優里 (はやし ゆうり)

教員

専門の学びと向き合い、自身のキャリアを考える。

将来社会で活躍するためには、専門性を深めて自分の武器とすることが重要です。受講前は大学での学びに迷いを感じている学生が多かったのですが、授業後の調査では「目標ができた」「もっと勉強しようと思った」と答えた学生が多くいました。大学の外に出た経験が大きな刺激となったようです。今後も多くの学生に受講してもらい、キャリア形成と専門の学びに向き合ってほしいと考えます。



生命科学部
 教授
 木村 成介 (きむら せいすけ)

キャリア実習(インターンシップ実践型)

対象 全学部 2年次 3年次 開講時期 6月～9月

“就業体験”を通じて、その仕事に就く能力が自らに備わっているか見極める本学独自のインターンシッププログラム。

本プログラムは「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」基準に準拠したインターンシップであり、各企業・団体の実際の実務を体験することにより、受講生がその仕事に就く能力が自らに備わっているか見極め、将来の仕事・職場とのマッチングの向上を目指します。本学が協力企業と連携して実施するキャリア教育プログラムで、国内の企業・団体での2週間(実質10日間)程度の「就業体験(実務)」を経験し、協力企業・団体の社員から指導いただきます。また、その前後の学内での学習を組み合わせたプログラムです。事前学習では目標設定、企業・業界研究、ビジネスマナー講義など(5日間17講)、事後学習では就業体験から得た学びの振り返り、成果報告(2日間6講)を行います。

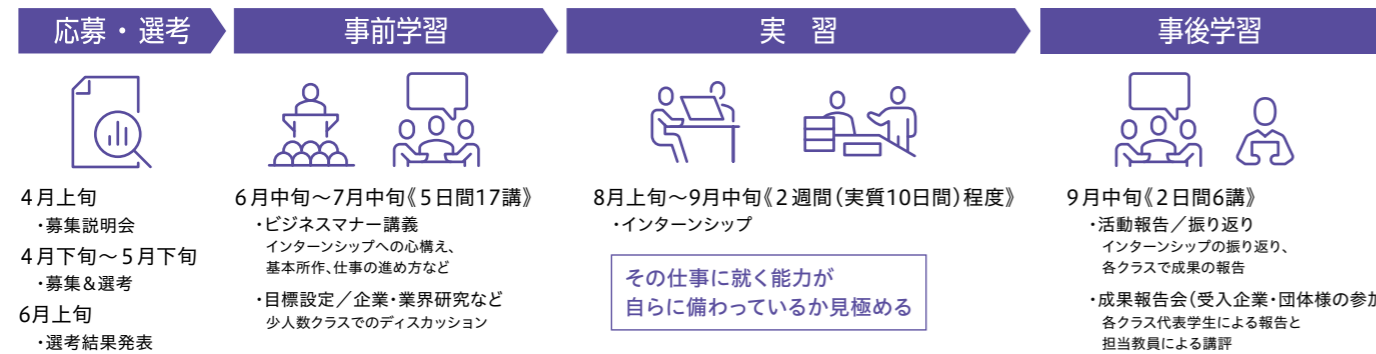


実習先企業からアドバイスを受けている様子

企業様にご協力いただく内容

- 事前学習への参画 受講生の事前訪問対応
- 2週間(実質10日間)程度の受け入れ
- 実習日報の確認・コメントの記載
- 成果報告会・交流会への参加
- 受講生の評価アンケートの回答

プログラム内容



MESSAGE

協力企業

記憶に残るプログラムで、学生のこれからを応援。

医療機器商社として、一般的に分かりづらい業界の理解と当社の認知度向上を期待し参画。営業同行やロールプレイでは寸度なく質問してもらい、社員にとっても知識や考え方を問われるレベルアップの場になったと感じています。また、対話する中でもっと自分を肯定してほしいと感じ、座談会形式と一緒に自己を知る取り組みも実施。自信を持ち、社会にふみ出す一助になればと願っています。



五洋医療器株式会社
代表取締役
小坂 正記 (こさか まさき)

受講生

就職活動への不安が払拭され、前向きな姿勢に変わりました。

病院訪問などで初めて触れた、医療機器独自のお客様との関わり方や商品知識は、すべてが興味深いものでした。社長自ら開いてくださった座談会や外部の方々を招いた講演会では、ポジティブ思考が仕事での成功や自身の成長に欠かせないことを学びました。自己分析や発表の機会も多く、自分を見つめ直すことで、直接お客様と話し役立てる仕事が見たいという目標を見出すことができました。



経営学部
マネジメント学科 3年次生
池澤 沙姫 (いけざわ さき)

教員

実際の業務を経験し、自分の適性、専門性を活かすインターンシップ。

本学のインターンシップは先進的な取り組みとして高く評価されています。2022年に政府からインターンシップの新たな方向性が提示され、本学はその基準に則った内容として、今後のわが国のモデルとなるインターンシップを目指しています。学生は就業体験(実務)を通じて自らの能力、適性等を見極めます。そのため事前・事後授業では大学での学び、自分自身を深く掘り下げ、その後の就職活動にもつなげます。



経営学部
准教授
松高 政 (まつたか まさし)

キャリア実習(職場体験型)

対象 全学部 2年次 3年次 開講時期 6月～9月

“働くこと”への理解を深めるため、体系的な学びを通じて、自らのキャリア(職業観・就業観)を考える教育プログラム。

本学が主導するキャリア教育プログラムであり、協力いただく国内の企業・団体での2週間(実質10日間)程度の「職場体験」と、その前後の学内での学習を組み合わせたプログラムです。事前学習では目標設定、企業・業界研究、ビジネスマナー講義など(5日間14講)、事後学習では職場体験から得た学びの振り返り、成果報告(2日間6講)を行います。

本プログラムを通して、企業・業界、仕事内容の理解や自身の興味・適性を知ること、今後の学習生活や卒業後の進路を考える契機とし、学習意欲や就業意欲の向上につなげます。

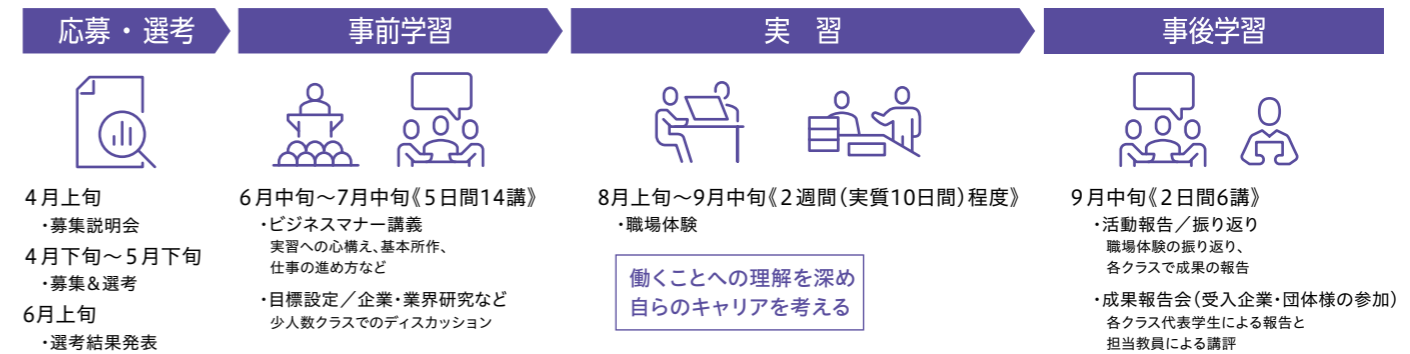


受講生が実習先で業務に取り組む様子

企業様にご協力いただく内容

- 受講生の事前訪問対応
- 2週間(実質10日間)程度の受け入れ
- 実習日報の確認・コメントの記載
- 成果報告会・交流会への参加
- 受講生の評価アンケートの回答

プログラム内容



MESSAGE

協力企業

他者と協働し成果を生み出すチームワークに驚かされました。

コミュニケーションを通して「社会で働く」ことを深く学べるよう、多様な部門の社員と交流できるプログラムを設定しました。最も感じたのが他者と協働する力。社内レイアウトを考えるワークでは積極的にチームワークを発揮し、柔軟な発想で社員も驚くアイデアを生み出してくれました。長期の職場体験により、当社のリアルな仕事と社風を知っていただけたことも大きな成果だと感じています。



株式会社フジタ
大阪支店 総務部
沼田 孝光 (ぬまだ たかみつ)

受講生

長期の職場体験だからこそ得られる充実した学び。

実習中、社内報制作のために高速道路の耐震補強工事の現場を取材。工事のスケールと、影響を考え配慮されている範囲の広さを目の当たりにし、総合建設会社ならではのやりがいと責任を直に感じる事ができました。営業同行やグループワークなどで、さまざまな部門の方と交流する中でも、みなさんの充実感が伝わり、自身の仕事への価値観が大きく変わる密度の濃い10日間となりました。



法学部
法律学科 3年次生
中島 巧貴 (なかじま よしき)

教員

就職への不安を自信に変える貴重な機会となっています。

本科目は学生が働くことをイメージし、職場の雰囲気やコミュニケーション、自らの適性を知る入門編となっています。事前学習で参加企業について調べ、発表。グループワークに真剣に取り組むなかで積極性が増し、多様な意見を吸収したうえで明確な目的意識と目標設定のもと職場体験に臨みます。企業の方から厳しくも温かいフィードバックをいただくとともに、事後学習で体験の意味を振り返り、社会に出る自信を深めています。



現代社会学部
准教授
木原 麻子 (きはら あさこ)

キャリア実習 (海外インターンシップ実践型)

対象 全学部 2年次 3年次 開講時期 6月～9月

海外でのインターンシップを通じて、グローバル社会で活躍できる人材を育てる!

学生の夏期休暇期間(8月～9月)中に海外にある日系企業や現地企業・団体等で3週間から1ヵ月、インターンシップの受け入れをお願いしています。渡航前には業界研究・異文化理解・危機管理に関する講義を実施し、現地で就業体験をした後、帰国後は振り返りや成果報告を行います。



ニュージーランド: 出版社での実習の様子

企業様にご協力いただく内容

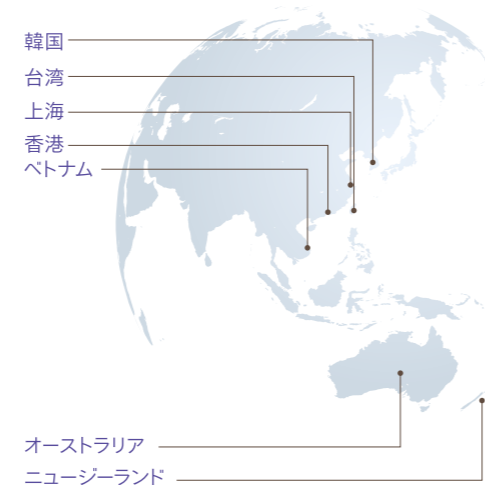
- 3週間から1ヵ月のインターンシップ受け入れ
- ビザ取得に必要な書類作成・手続き
- 実習日報の確認・コメントの記載
- 受講生の評価アンケートの回答

プログラム内容

賃金	不要
宿舎	費用は本人負担、ホームステイ、ホテル、ゲストハウス等(ご紹介歓迎)
在留資格	ワーキングホリデービザまたはそれに準ずるビザを取得の上渡航予定 ※書類作成・提供などのご協力をお願いする場合がございます。
スケジュール	~12月 インターンシップ内容調整 12月～2月 登録票ご提出&協定書締結 3月～6月 募集説明会・選考など 6月～7月 事前学習 8月～9月 インターンシップ&受講生の評価 9月 事後学習 9月 アンケートの回答&提出

・必要な語学(レベル)や経験などがございましたら内容調整時にご教示ください。

海外インターンシップ 過年度実施先(実績)



MESSAGE

受講生

海外での多彩なチャレンジを通して自信と成長を手に入れました。

スポーツツーリズムへの興味からシドニーの日系旅行会社での業務に魅力を感じ受講。市内視察やツアーガイド見学に加えて、スタッフとして英語でのオフィス業務も担当。最後のツアーの企画にはクオリティとコストの両立に悩みつつ、ワクワクしながら取り組みました。チャレンジの連続でしたが、日本と海外を結ぶ仕事への意欲が高まる爽り多い経験でした。



現代社会学部
健康スポーツ社会学科 2年次生
高垣 愛美 (たかがまなみ)

教員

国際的な視野に立ち、自らのキャリアを築く契機に。

海外で約1ヵ月という長期間にわたり働く経験を積める、非常に実践的な実習内容です。学生たちは日本以外の仕事のあり方に触れ、想定外の場面にも対処しながら、自らのキャリアを柔軟に、かつたくましく切り拓く力を培っていきます。大学と提携企業による実習中および実習前後のサポートも、安心して有意義な学びを得る後押しになっています。



文化学部
助教
田中 里奈 (たなかりな)

アスリートインターンシップ

対象 体育会クラブ所属学生 全学部 2年次 3年次 開講時期 12月～2月



UNIVAS AWARDS 2021-2022
マイナビ賞「キャリア支援に関する優秀取組賞」を受賞したプログラムです。

体育会クラブ所属学生の潜在的な強みを顕在化し、実社会で活かす!

体育会クラブ所属学生を対象に、協力企業における1週間(実質5日間)の就業体験と、その前後に学内で実施する事前・事後学習を組み合わせたプログラムです。受講生が取り組む競技生活で得た学びや経験と、実社会との繋がりを意識することで、競技生活で日々磨いている強みの自覚とともに、自身で進路選択ができる力を養うことを目的としています。

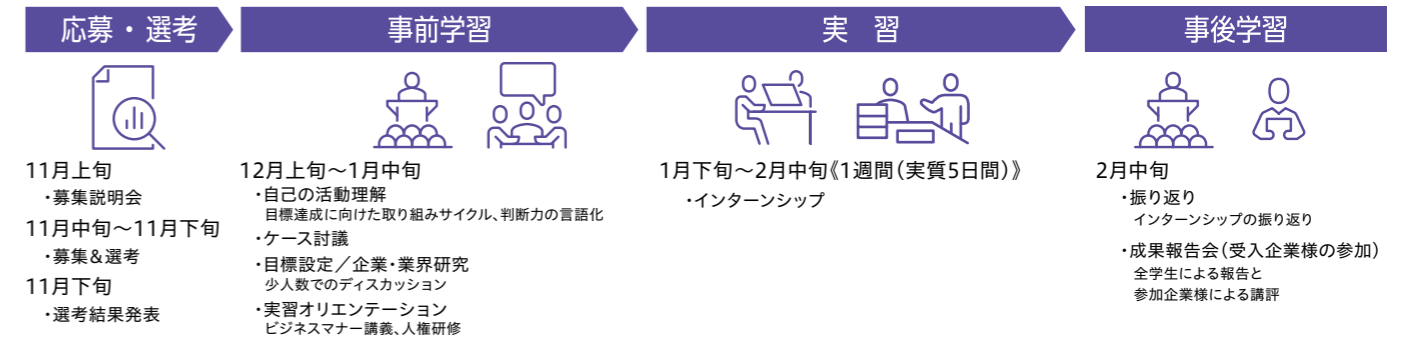


成果報告会で発表している様子

企業様にご協力いただく内容

- 実習最終日の報告テーマ設定
- 受講生による問合せ対応
- 1週間(実質5日間)のインターンシップ受け入れ
- 実習日報の確認・コメントの記載
- 成果報告会・交流会への参加
- 受講生の評価アンケートの回答

プログラム内容



MESSAGE

協力企業

目的・目標を意識し、自ら動く姿勢で日頃の鍛錬の成果を感じました。

多様な社員の声から働くことの責任や覚悟、働きがいを体感し、自らの強みを見発する座談会やワークを設定。質問や発表などアウトプットの場も多く設けました。どの場面でも当事者意識を持ち学び取る姿勢が印象的で、目標に向けてすべきことを考え実践する日頃の鍛錬が見事に活かされていました。私たちにとても、キャリア形成支援の取り組みの企画・実施は多くの学びにつながっています。

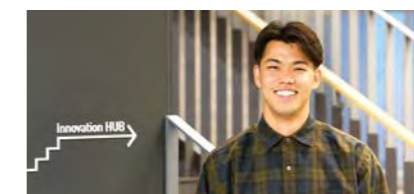


株式会社イシダ
総務人事部 人事課
慶野 朱音 (けいのあかね)

受講生

主体的に取り組むことで、社会で自分自身の価値を提供していきたい。

実習の中で、社会人にとっての当事者意識の大切さを実感。話を聞く時には、必ず疑問点を意識し積極的に質問するようになりました。コミュニケーション力を高めるとともに、主体的に臨むことで「自分の価値」が提供でき、仕事の質ややりがいの向上につながると感じました。今後、大学や社会での活動により積極的に取り組み、自分の価値を発揮して、所属する組織の活性化に貢献していきたいです。



経営学部
マネジメント学科 3年次生
木村 天南 (きむらあなん)

教員

部活動でのアスリート経験で得た“強み”を認識し、活かすことで社会で活躍する人材を育成。

アスリート学生の強みは「上下関係」「根性」などではなく、「勝つために目標を立て、練習メニューを工夫する」という経験を通して、ビジネスで重要なPDCAサイクルを自然に身につけていること。また、瞬発的な判断力や決断力もアスリート学生の資質です。そんな自分の“本当の強み”に気づき、言語化することで今後の人生に役立てるのが本科目の特長です。



経営学部
准教授
伊吹 勇亮 (いぶきゆうすけ)

オーシフ ピービーエル
O/OCF-PBL



経済産業省 社会人基礎力を育成する授業30選

2014年度に経済産業省の「社会人基礎力を育成する授業 30選」に採択されたプログラムです。本学は唯一、複数プログラムが採択されました。

実社会の課題に取り組み、
解決のためのスキルや心構えを培う。

「O/OCF-PBL(On/Off Campus Fusion-Project Based Learning)」は、大学(On Campus)での学びと実社会(Off Campus)での学びとを融合(Fusion)させた、課題解決型学習(PBL:Project Based Learning)科目です。
学生が社会で活躍する力を身につけるためには、非定型的で答えのない実社会の課題に取り組む実践が不可欠です。1年次から2年次までの一貫したプログラムによって、企業や行政機関等からいただいた課題にチームで取り組み、「課題解決スキルの修得」と「主体性や社会性をはじめとする能力の伸長」を図っていきます。



成果報告会の様子：企業から提供された課題に対し解決策を提案

企業様にご協力いただく内容

- 課題の提供
- 課題解決に向けた調査活動(見学やヒアリングなど)へのご協力
- 中間報告、成果報告会への参加・評価

2023年度課題

課題提供機関	課題
株式会社 JTB 京都支店	JTBのリソースを利用し、社会課題を解決するビジネスモデルを構築せよ。
株式会社ユーシン精機	若手・中堅社員の確実な成長を促進するための研修プログラムはどのようなものか？
TOWA株式会社	スマホアプリなどのメディアを使った「楽しく手軽に学べる」半導体教育ツールを企画しよう！
京阪ホールディングス株式会社	京都・伏見の「新しい歩き方」について！
京都市動物園	生物多様性って何？どうして大事なの！？-生物多様性の大切さを知り、わかりやすく伝えてほしい-
株式会社イシダ	デジタルコミュニケーションを活用し、イシダの知名度をアップさせよう！
シミズ薬品株式会社	ペビーからお年寄りまで：多様なお客様の「正解」を探したくなる教育プログラムの開発。
京都市交通局	観光客の京都駅前バスターミナルへの一極集中を解消する施策を考案せよ。
株式会社フラットエージェンシー	コロナ終息の状況でどのように集客・効率化を目指すか。様々な角度から提案してください。
日新電機株式会社/株式会社日新システムズ	地域住民間でコミュニケーションが図れる参加率の高いイベントを企画してみよう！

プログラム内容

O/OCF-PBL 1

対象 全学部 1年次 開講時期 秋学期

「チーム」として機能するためのスキルを学ぶ

「個からグループ、グループからチームへ」を目指し、教員が段階的に設定した課題に挑戦。自己成長トレーニングシステムに沿って、「自分自身への信頼を高める」「意欲的に他者と関係がつけれる」等を目標に人間関係構築力を養います。



知識を学び、ワークで体感する様子

O/OCF-PBL 2

対象 全学部 2年次 開講時期 4~10月

6か月間かけて実際の課題解決を体験

企業や行政機関等から提供いただいた課題にチームで挑戦し、成果報告会で解決策を提案。学内と学外での学びと実践を積み重ねる中で、「社会人基礎力」「自他肯定感」「自在に人と関わる力」「問題解決力」を養います。



中間報告会で企業からフィードバックを受けている様子

MESSAGE

協力企業

動物園の教育機関としての側面から、大学生年代に働きかけられる有意義な機会。

動物園の教育機関としての役割を果たす意味から協力しました。動物園の役割や課題を伝え、それに関連して今回は「生物多様性」の重要性を参加学生が理解し、学内で広めるとともに、社会に向けて発信することを目指しました。学生の大半が動物園に訪れるのは小学生の時からで、大切な役割として「希少種の保全」があることも認識できていませんでした。この現状に私たちも問題意識を新たにするとともに、明確な定義がない「生物多様性」の説明方法を検討する必要を痛感。一方で、これまでの取り組みで労力を注いだだけ成果に結びつくことも実感しており、今回も学生たちが企画・実施した社会に発信するための施策は期待以上の内容となりました。



京都市動物園 生き物・学び・研究センター長 田中正之 (たなか まさゆき)

受講生

解決策の実施まで行う過程で、大きな学びを得られるのがこのプログラムの魅力です。

社会の実際の課題に対し解決策の実施まで行う過程では、限られた日程での課題の理解、実現可能で有効性のある解決策の考案、メンバーとの協働など壁にぶつかる場面も多くありました。特にテーマである「生物多様性」の正しい理解に時間を要してしまい、動物園やきょうと生物多様性センターの方々、学内の先生の多大なサポートを受けながら道筋を見出していきました。最終的に京都市のイベントで生きものの絵合わせゲームを行い、お子さんから専門家の方まで楽しく「生物多様性」に触れていただくことができました。自分たちが理解していった過程を見つめ直して一から発想し、成果につなげることができ、大きなやりがいと学びを得る経験となりました。



国際関係学部 国際関係学科 2年次生 樋口七優 (ひぐち なゆ)

教員

じっくり段階的に学ぶ科目設計で、受講生全員の主体的な活躍と成長を実現しています。

このプログラムでは、効率性や結果のインパクトではなく、受講生の主体的な意欲と活動を重視。一人ひとりの特性を活かし、多様性を尊重しながら、個々の活躍と能力伸長をめざします。そのため、教員は支援・ファシリテーションのスタンスでクラスを運営。科目設計は、1年次でチームワークの基礎的スキルを養成し、2年次で実践に応用する、段階的に学べる内容となっています。受講生たちは長期間同じメンバーと一つの目標に向け活動し、チームの中で果たせる役割を見つけ実践。着実に自信と成長を手にかけています。企業・団体の皆さまから、受講生の真剣な姿勢を好意的に見ていただき、積極性や行動・思考の柔軟性、提案の実効性について、高い評価をいただいています。



共通教育推進機構 准教授 松尾智晶 (まつおちあき)

協力企業実績

年度	2021	2022	2023
協力企業数	11社	11社	10社
受講生数	167名	75名	51名

(2023年度課題提供機関アンケートより)

Q 学生の課題報告の成果に対する満足度

A 全課題提供機関が「非常に満足」もしくは「満足」と回答



- ・課題解決をする過程で私たちの視点とは異なった学生からの新しい意見や考え方で、新たな気づきを得ることができた。
- ・学生と触れ合うことで、自分自身が刺激を受けるため。
- ・学生に課題を伝える中で、自分たちも勉強になるから。
- ・学生の思考に触れることができた。
- ・提案・内容ともに良かった。

企業人と学生のハイブリッド



経済産業省 社会人基礎力を育成する授業30選

2014年度に経済産業省の「社会人基礎力を育成する授業 30選」に採択されたプログラムです。本学は唯一、複数プログラムが採択されました。

対象 全学部 2年次 3年次 4年次 開講時期 秋学期

若手社員と学生のプロジェクトで、企業課題を解決。

若手社員1名と学生3名とのハイブリッド(Hybrid:混成、融合)によるチームで、企業が抱える「リアル」な課題に4ヵ月かけて挑戦。リーダーシップ、プロジェクト・マネジメント、論理的思考などを学びます。若手社員の育成に主眼を置いており、参画される若手社員を対象に、担当教員による事前研修、事後の振り返りも実施。若手社員がリーダーシップを発揮して学生をまとめながら、課題解決の提案に向けプロジェクトを進めていきます。その過程は、社員、学生の双方にとって、「働く意義」について考え、理解を深める機会になっています。



チームで成果報告を行っている様子

企業様にご協力いただく内容

(メンター)



受講社員との課題解決の進捗の共有およびそれらに対する指導



中間報告会、成果報告会への参加・評価

(受講社員)



授業への参加



チームの課題解決に関する進捗管理・マネジメント



中間報告会、成果報告会への参加・発表

2023年度課題 ※一部抜粋

- ・採用における学生や求職者への自社の魅力付け。
- ・樹脂のプロフェッショナル・アテックのパーツは未来を創る。
- ・自動車事業部とグループ会社の協力体制を強化する。
- ・誤出荷削減による品質改善。
- ・人財支援ソリューションのブランディング。

プログラム内容

	受講生	受講社員	メンター
	オリエンテーション	導入セッション	
10月	<p>講義・グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的・目標・方針の共有 ・プロジェクトマネジメント ・リーダーシップ ・課題解決の手法 	<p>講義・グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の手法① ・企業課題の共有 ・課題への対応策の検討 	<p>情報共有・指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講社員との情報共有及び指導
11月	<p>講義・グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況・課題の共有 	<p>講義・グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況・課題の共有 	
	<p>講義・グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の手法② ・問題解決の手法③ 	<ul style="list-style-type: none"> ・実行プランの策定 ・プレゼンシートの作成 	
12月	<p>講義・グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の手法④ 		
	<p>中間報告会</p>		
1月	<p>講義・グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況の確認 		
	<p>成果報告会</p>		
	まとめレポート	活動の振り返り	

MESSAGE

協力企業

課題を設定し、ゴールに導く難しさを乗り越え、自信につながりました。

入社5年目の社員としてマネジメント力を培うとともに、学生さんにもキャリア形成の糧となる成功体験を手にしてほしいとの思いで取り組みました。目標としたのは、インナーブランディングにより当社のグループ全体の一体感を高めること。施策の方向性を探る過程では、課題を設定しゴールへと導く難しさを痛感しました。意欲的な学生の皆さんと議論を重ね、問題や条件などを整理。自動車事業部のお客様に当社が共同オーナーを務める京都ハンナリーズを紹介するとともに、社員同士の交流・共感にもつながる支店イベントの企画・実施にこぎつけました。全社アンケート実施や今後のイベント展開プランも盛り込んだ充実した内容となり、今後の自信につながる経験となりました。



株式会社マツシマホールディングス
社長室 社長補佐 企画本部 PRコミュニケーション
坂山 芽生 (さかやま めい)

受講生

別次元の存在だった“企業”が身近になり、働くことへの意欲が高まりました。

将来起業を目指していて、これまでも課題解決型の授業で成長できた経験から、迷わず受講。インナーブランディングを目的としたイベントを企画する中で、グループのみんなが違和感を覚えた場面がありました。「本当にこの方向性で合っているのか」。確信が持たず、マイナスの言葉さえ飛び交うように。そこで、担当の方や先生に思いをぶつけ、根本から目的を見直して全員が納得できる内容に軌道修正していきました。若手の社員の方と同じ目線で議論し、やりがいを共にしたこと、別次元だと思っていた企業での仕事が身近になったことも嬉しい成果。今回長所だと気づけた企画力を発揮できる仕事を、幅広い業界から積極的に探していきたいです。



経営学部
マネジメント学科 3年次生
林 翔梧 (はやし しょうご)

教員

企業人と学生がチームで取り組むユニークな科目。

本科目は、大学の授業でありながら、目的としては若手社員の育成に軸足を置いた全国的にも他に例のないユニークな科目です。部下を持ったことのない若手社員が、学生という3名の部下をまとめ、成果に対する責任を持って取り組みます。まず自分の会社や仕事を説明する難しさを知り、自らの仕事の意義を振り返ります。さらに、メンバーと信頼関係を築き、チームとして機能させていくことが求められます。そして、メンバーの能力を把握した上でのスケジュール管理も不可欠です。一つのゴールに向かって取り組む格闘の中で、学生の姿勢も真剣さを増し、通常のPBLとは違ったリアリティのある仕事体験を手にかけています。



経営学部
准教授
松高 政 (まつたか まさし)

協力企業実績

年度	2021	2022	2023
協力企業数	8社	7社	7社
受講生数	28名	23名	24名

(2023年度企業アンケートより)

Q この授業は、仕事や業務遂行に役立つものだと思いますか。

A 受講社員全員が“強く思う”もしくは“そう思う”と回答

100%

・学生が実際に企業の改善に関われる機会というのは凄く貴重なことである。また、社員としても全く企業の事を知らない人に説明し、自チームをマネジメントしていくことは社員にとっても大きな経験につながる。

・若手不足の弊社にとって後輩育成能力が求められており、後輩ができたときのシミュレーションができたと感じた。

・社員にとっても働く意味やこれからの仕事に対して考え直しができる。

・現在の仕事ではあまりチームで課題に取り組むという状況が少ないため、本科目への参加は、リーダーとしてどのように行動すべきなのかを経験する良い機会となった。

・プロジェクトマネジメントとリーダーシップを学ぶことができた。学年学部も違う学生を取りまとめるのは苦労しましたが、今後の仕事において貴重な経験ができた。

理工系コーオプ教育プログラム

対象 **情報理工学部** 3年次 4年次 **生命科学部** 3年次 4年次
 開講時期 **2月～7月** *協力企業と調整 **11月～10月**

専門的な学びの成果を企業や地域で実践。特別研究(卒業研究)の一環として長期のインターンシップに取り組む専門性の高い独自のプログラム。

本プログラムは、情報理工学部および生命科学部の特別研究(卒業研究)で実施されるプログラムです。企業や地域の方々と学生が協働し、ものづくりやイベントの企画運営に取り組んだり、プログラム、ソフトウェア、仕様書、調査レポート、企画書などの提案を行います。教員も企業と共に学生の指導にあたります。社会での経験を各個人の卒業研究につなげることを目指します。



成果報告会(公開)の様子

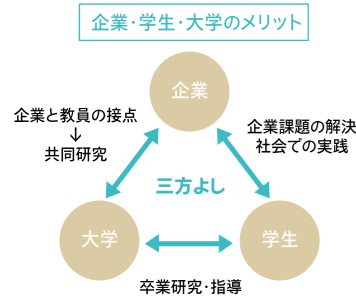
企業様にご協力いただく内容

- 課題の提供 (3ヵ月以上のインターンシップ受け入れ)
- 顔合わせ会・キックオフ・中間報告会・成果報告会への参加
- 実習日報の確認・コメントの記載

プログラム内容(プロジェクトにより開始時期や期間が異なります)

事前学習 → 実習 → 事後学習

- 事前学習: オリエンテーション、テーマに向けた準備、顔合わせ会
- 実習: キックオフ及び成果報告会(社内向け)、1か月に1回教職員同行による情報共有もしくは中間報告会
- 事後学習: レビュー、成果報告会(公開)



MESSAGE

協力企業

自然環境保全と地域づくりとの関連を学ぶプログラムを実施。

自然環境保全を行う会社として、地域づくりと自然再生の取り組みは密接に関連し、貢献し合えることを学んでほしいと考え、嵯峨野地域の米作り体験を実施。1年間、環境整備から田植え、収穫、地産地消まで地域循環を支える当社の取り組みに参加してもらいました。一貫して携わることで学生にとって、分かりやすく、実りある成果があったと感じています。



株式会社アドプランツコーポレーション 代表取締役 増永 滋生 (ますなが しげお)

受講生

専門の学びを地域で深めることができました。

森林保全活動を行いたくて入学した経緯があり、企業の方と地域で活動できる点に魅力を感じました。特に興味を持ったのが竹林整備で生じた竹の再利用です。笹は動物園のエサとして、節間はチップにして米作りの土壌に利用。地域活性化に活かせることを知り、保全活動の見方が変わりました。作業を通して、社会は働く人たちが皆で支え合い成り立っていると実感したことも意義ある成果でした。



生命科学部 産業生命科学科 4年次生 大倉 一馬 (おおくら かずま)

教員

将来に向け、自らの専門性を社会に役立てる力を養う。

このプログラムでは、卒業研究の一環として社会での実践を通じて課題解決力などを養います。大学の外的世界に出て、社会のリアルな問題や実状を体感する中で、課題解決に向け自らの専門性をどう役立てるのかを強く意識。地域や企業の方との長期間にわたる協働を通して、社会で活躍するための責任感や意欲、根幹的な力も培われていきます。



生命科学部 教授 木村 成介 (きむら せいすけ)

導入・接続教育科目群

自己発見と大学生活

対象 **全学部** 1年次 開講時期 **春学期**

全10学部混合のクラス編成で、グループワークを中心とした参加型授業です。授業ではグループによるアイデア創出、課題解決や発表を行います。他学部の学生との交流で多様な価値観に触れ、コミュニケーションスキルを身につけていきます。



ファシリテーション入門

対象 **全学部** 1年次 2年次 開講時期 **秋学期**

ファシリテーションとは、集団での問題解決、アイデア創造、自己表現など、あらゆる知識創造活動を支援・促進していく活動のことを指します。本授業では、少人数でのグループワークを通して高度な能力開発・組織開発のための態度とスキルの修得を目指します。

キャリア・Re-デザイン

対象 **全学部** 1年次 2年次 3年次 4年次 開講時期 **春学期・秋学期**

※一部の学部・学科を除く

「大学生活になじめない」「勉強する意欲がわかない」等の状態にある学生を主な対象に、大学生活やその後の将来に対するモチベーションの再発見を目的とした授業です。グループワーク型の授業を徹底し、学部、学科、立場を越えた様々な人々と関係を築きながら、多様な価値観に触れ、次の一歩を踏み出します。

産学協働教育科目群

自己発見とキャリアデザイン

対象 **全学部** 2年次 3年次 4年次 開講時期 **春学期・秋学期**

実社会で活躍される外部講師に登壇いただき、講演内容に対して少人数グループでのディスカッションを行いながら授業を展開します。主体的な大学生活の推進と卒業後のキャリア・プランの明確化、自らのキャリア観を形成する力を高めます。



キャリアのためのビジネスソリューション

対象 **全学部** 2年次 3年次 4年次 開講時期 **春学期・秋学期**

この授業では、「ビジネス」「企業」「業界」「産業」などを対象としたビジネスソリューションの事例などを学ぶと同時に、日々進行している産業や暮らしの大きな変化を、具体的な事例から捉え、未来のビジネスにどのような影響を与えるのかを考察します。また、学生自身も自らのキャリアを構築する際に有益なビジネスソリューションのトレーニングを行い、使えるスキルとして習得することを目指します。

キャリア実習(自己開拓型)

対象 **全学部** 2年次 3年次 開講時期 **7月～9月**

企業、行政が独自で募集を行うインターンシップ等の中から、学生が希望する実習先を自ら探し出し、実習許可を得る自主的な活動の支援を目的とした科目です。夏期休暇中に5日間以上の実習体験を行います。



キャリア実習(大学コンソーシアム京都連携型)

対象 **全学部** 2年次 3年次 4年次 開講時期 **6月～9月**

(公財)大学コンソーシアム京都が主催するプログラムとの連携科目です。夏期休暇中に企業・行政・NPO・NGO等で2週間程度の就業体験、職場体験を行い、同財団での学習に加え、本学独自の事前・事後授業も行います。同財団の学習では他大学生と共に学びます。

- (公財)大学コンソーシアム京都主催プログラム概要
- ・事前学習(6月～7月):実習に向けた仮説と目標設定。
- ・実習(8月～9月):2週間程度の就業体験、職場体験。
- ・事後学習(9月):実習経験の共有および振り返り。

- 京都産業大学の授業概要
- ・事前授業(7月):オリエンテーションおよび人権研修。
- ・事後授業(9月):実習報告。

協力企業実績 2023年度課題 (生命科学部)

課題提供企業

- 株式会社アドプランツコーポレーション

研究課題

- 産官学連携による京都嵯峨野の竹林・田圃保全

アクセス

※乗り換え時間は含みません

京都産業大学の学びの舞台は、豊かな自然と伝統文化に彩られた京都市内。関西主要都市からのアクセスもスムーズです。

- 京都駅から ▶▶ 29分
- 三ノ宮駅から ▶▶ 1時間20分
- 大阪駅から ▶▶ 58分
- 大津駅から ▶▶ 38分
- なんば駅から ▶▶ 1時間7分
- 近鉄奈良駅から ▶▶ 1時間18分
- 京橋駅から ▶▶ 1時間1分



・最寄り駅から ▶▶ ※所要時間は最短時間で算出しています。

地下鉄	国際会館駅	京都バス9分	京都産業大学前
地下鉄	北大路駅	市バスまたは京都バス15分	
叡山電車 (鞍馬線)	二軒茶屋駅	二軒茶屋シャトルバス5分	
	上賀茂神社	上賀茂シャトルバス7分	



〒603-8555 京都市北区上賀茂本山



- 経済学部 ■ 経営学部 ■ 法学部 ■ 現代社会学部
- 国際関係学部 ■ 外国語学部 ■ 文化学部 ■ 理学部
- 情報理工学部 ■ 生命科学部 ■ 大学院

キャリア形成支援プログラムに関するお問い合わせ先

キャリア教育センター(4号館4階)

Tel: 075-705-1754 Fax: 075-705-1939

Mail: cwie-center@star.kyoto-su.ac.jp

[窓口時間] 平 日 / 9:00~16:30 土曜日 / 9:00~12:00
(13:00~14:00を除く)



求人に関するお問い合わせ先

進路・就職支援センター(13号館4階)

Tel: 075-705-1441 Fax: 075-705-1442

Mail: ace-kyujin@star.kyoto-su.ac.jp

